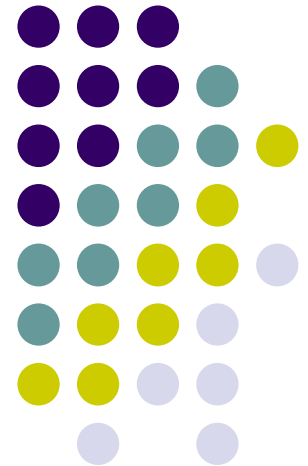
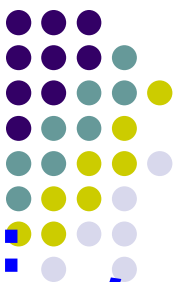


資料の構成について2

- 共用試験OSCEの意義と概要
- 臨床実習前OSCE
- 臨床実習後OSCE

共用試験OSCEの意義と概要





臨床実習開始前の共用試験導入の経緯

● 医学教育の改善に関する調査研究協力者会議 文部省1987(昭和62)年

- 臨床実習により病む人に多く接し、その病態や苦しみの実態に触れることが医師としての人間教育に重要
- 患者への面接技法を含めて、診察技術の修得を到達目標とする
- 臨床実習をより効果的に行うには、実際の患者の診察のみならず模擬患者を用いたり…（中略）…大学附属病院では、医学生を診療チームに参加させるシステムの導入を考慮

● 「21世紀医学・医療懇談会報告」第1次～第4次 報告：文部省1996(平成8)～1999(平成11)年

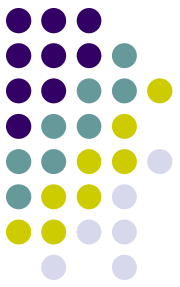
- モデル・コア・カリキュラムの作成
- 全国的に一定の水準を確保
- 各大学における進級認定のための共通の評価システムを作ることについて検討すべき

大学間の共用試験システムの提案



- 臨床実習開始前に学生の評価を適切に行うため、大学間で合意の上、**共同で質の高い総合試験問題を作成、実施すること**は効率的である
- 臨床実習に参加している**医学生・歯学生がある一定の能力を有する学生であることを社会に対して保証する共通の評価基準の根拠**となる

医学・歯学教育のあり方に関する調査研究協力者会議最終報告
(平成13年(2001年)3月27日)



診療参加型臨床実習の充実に向けて

- 適切な進級認定システム
 - 診療参加型実習前に試験を実施
 - CBT : Computer Based Testing
 - OSCE : Objective Structured Clinical Examination
- 違法性の阻却
 - 旧厚生省臨床実習検討委員会（前川正委員長）
最終報告1991（平成3）年
 - 「医学生が実診療に参加し医行為を行うことは医師法に抵触するのではないか」という疑問に対応
 - 医学生による医行為が違法でないと解釈できる条件を提示
 - ①侵襲性の高くない一定のものに限る
 - ②指導医によるきめ細かな指導・監視のもとに行われる
 - ③事前に医学生の評価を行う
 - ④患者などの同意を得て実施する

医療系大学間共用試験実施評価機構の沿革

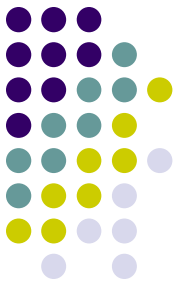


会 員：会員は学部長・学長

沿 革：

- 2002（平成14）年 4月 共用試験実施機構を設立
（事務局は全国医学部長病院長会議内）
- 2005（平成17）年 3月 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構を
設立認可（文部科学省）
事務局を医学部長病院長会議内から機構に移動
会員数 医学部・医科大学80大学
 歯学部・歯科大学28大学
- 2005（平成17）年12月 **第1回共用試験（CBT・OSCE）実施**
- 2008（平成20）年 4月 研究部設置
- 2014（平成26）年 4月 公益社団法人に移行
- 2017（平成29）年 4月 臨床実習後OSCE トライアル開始
- 2020（令和 2）年 4月 **臨床実習後OSCE 正式実施**
会員数 医学部・医科大学82大学
 歯学部・歯科大学29大学

共用試験実施評価機構の事業 (医学系)



➤ 臨床実習前

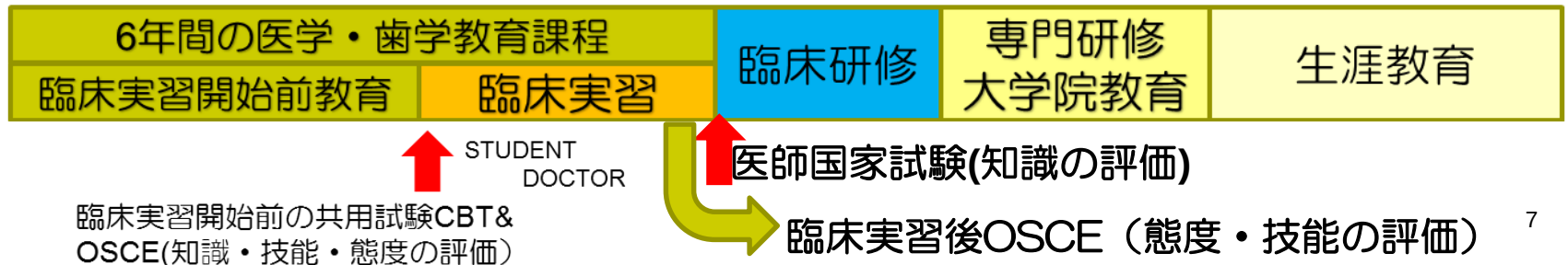
- 知識：多肢選択式試験
コンピュータを用いた客観試験 (CBT)
- 態度・技能：客観的臨床能力試験
臨床実習前OSCE (Pre-CC OSCE)

➤ 臨床実習後

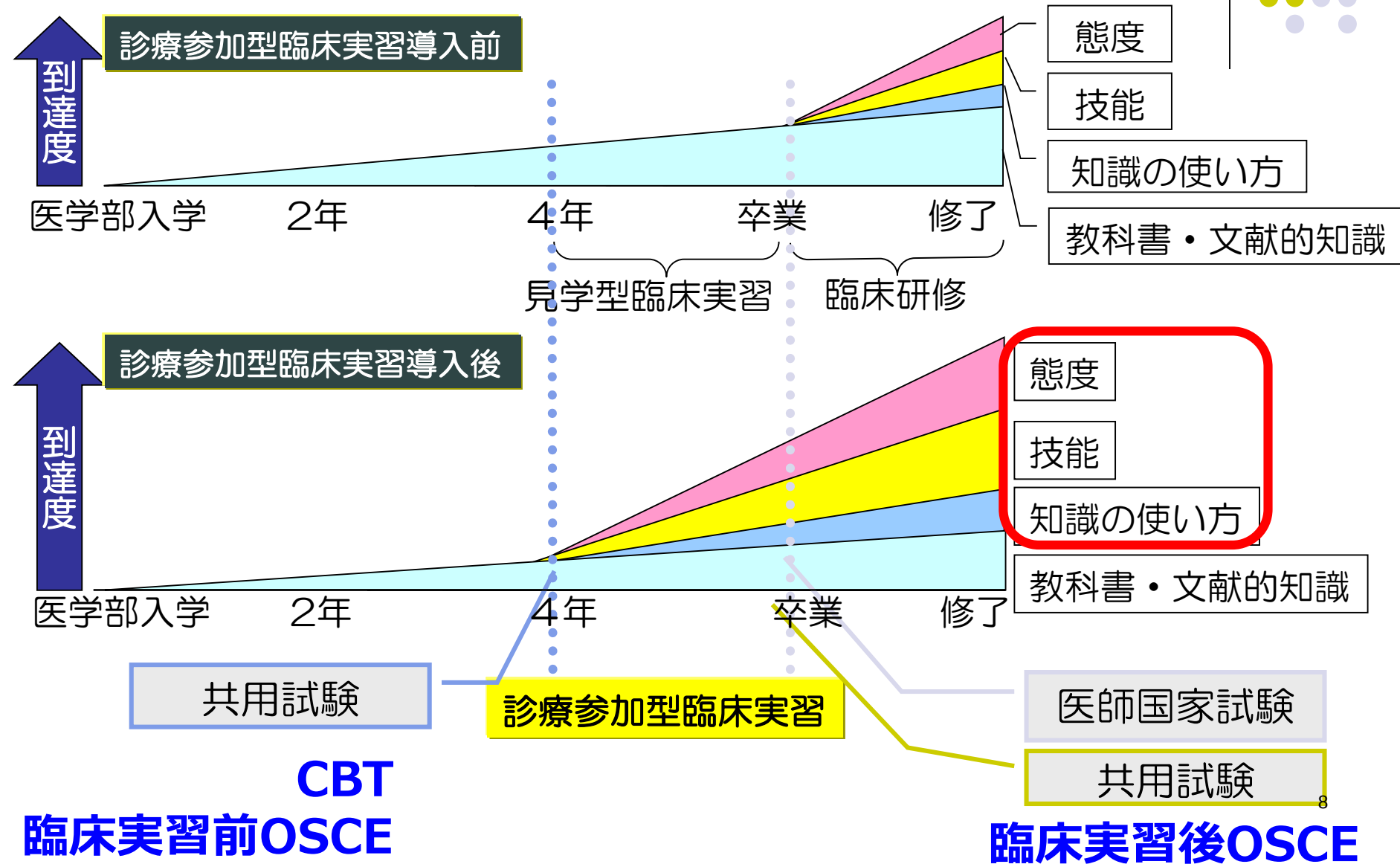
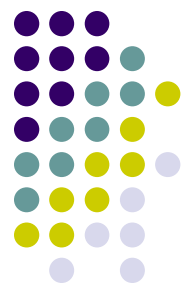
- 態度・技能：客観的臨床能力試験
臨床実習後OSCE (Post-CC OSCE)

➤ 標準模擬患者養成

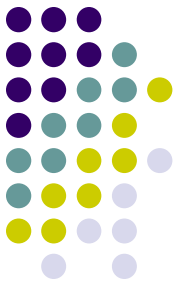
➤ 評価者養成



診療参加型臨床実習前・後の共用試験

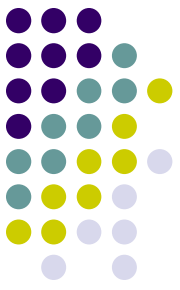


外部評価者



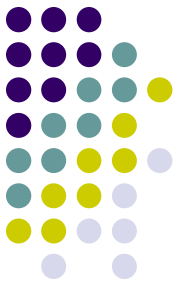
- 機構が提供する課題においては、①他大学教員、②臨床研修病院などの医師（臨床実習後 OSCEのみ）が外部評価者となり、試験の妥当性・公平性・透明性を確保する
- 外部評価は認定評価者が行う
- 認定評価者は、機構が主催する評価者認定講習会受講など、決められた過程を経て認定される

臨床研修病院などの医師が 共用試験OSCEに参画する意義



- 臨床研修病院などの指導医も外部評価者となり、試験の妥当性・公平性・透明性の確保に寄与する
- 客観的評価やパフォーマンス評価について学習・経験し、自らの指導方法を振り返ることに利用できる
- 卒前の医学教育の現状を知り、他大学教員や臨床研修病院などの指導医との交流や情報交換の機会とすることができる
- 医師養成課程に参入して、未来の医師を育てる診療参加型臨床実習の実をあげ、協働して医学教育のさらなる充実を目指すことに貢献できる

機構派遣監督者



● 役割

- 実施施設のOSCEに対するフィードバック
- 共用試験OSCEの問題点を検証
- 機構内実施本部との連絡
- 報告
 - 外部評価者からの報告の取りまとめ
 - 機構に報告書を提出

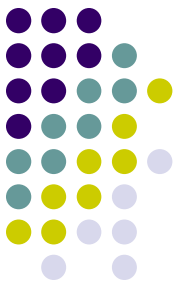
● 当日の活動

- 受験生の評価者はせず、開始から終了まで実施状況を監督
- 試験実施後の反省会に参加

● 危機管理

- 課題の漏洩などへの対応
- インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症、大災害、天災、交通障害など不測の事態への対応

臨床実習前のOSCEと 臨床実習後のOSCEの違い



2021年度時点

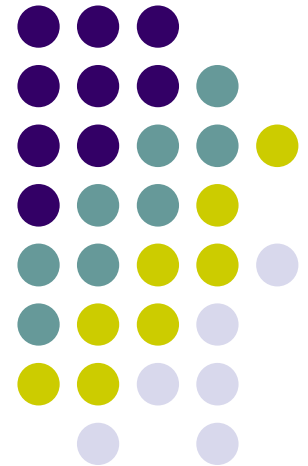
	臨床実習前OSCE	臨床実習後OSCE
受験時期	臨床実習開始前（主に4年生）	臨床実習終了後（6年生）
課題内容	医療面接と身体各部の診察	ある症候をもつ患者への医療面接、身体診察、指導医への報告を1室内で実施
総括評価	臨床実習開始の可否	卒業及び臨床研修開始の可否（卒業判定の資料）
課題数	6課題（医療面接10分、その他5分）必須	機構課題3課題（1課題16分）+ 大学独自課題（1～3課題）
評価者	自大学教員 + 他大学教員	自大学教員（医師） + 他大学教員（医師） + 臨床研修指定病院の指導医
動画記録	必須ではない	必須（2方向以上を推奨）

共用試験OSCEとは



- 診療参加型臨床実習を行う学生が、臨床実習で医行為を許容できる能力を有することを社会に保証する
- 診療参加型臨床実習を終えた学生が、臨床研修開始時に必要な臨床能力を有することを社会に保証する
- 妥当性・公平性・客観性・透明性が求められるため、
 - 共通の課題と評価基準を用いる
 - 機構から外部評価者や機構派遣監督者を派遣する

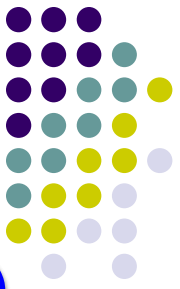
臨床実習前OSCE (Pre-CC OSCE)



臨床実習前の

客観的臨床能力試験

(Objective Structured Clinical Examination ; OSCE)

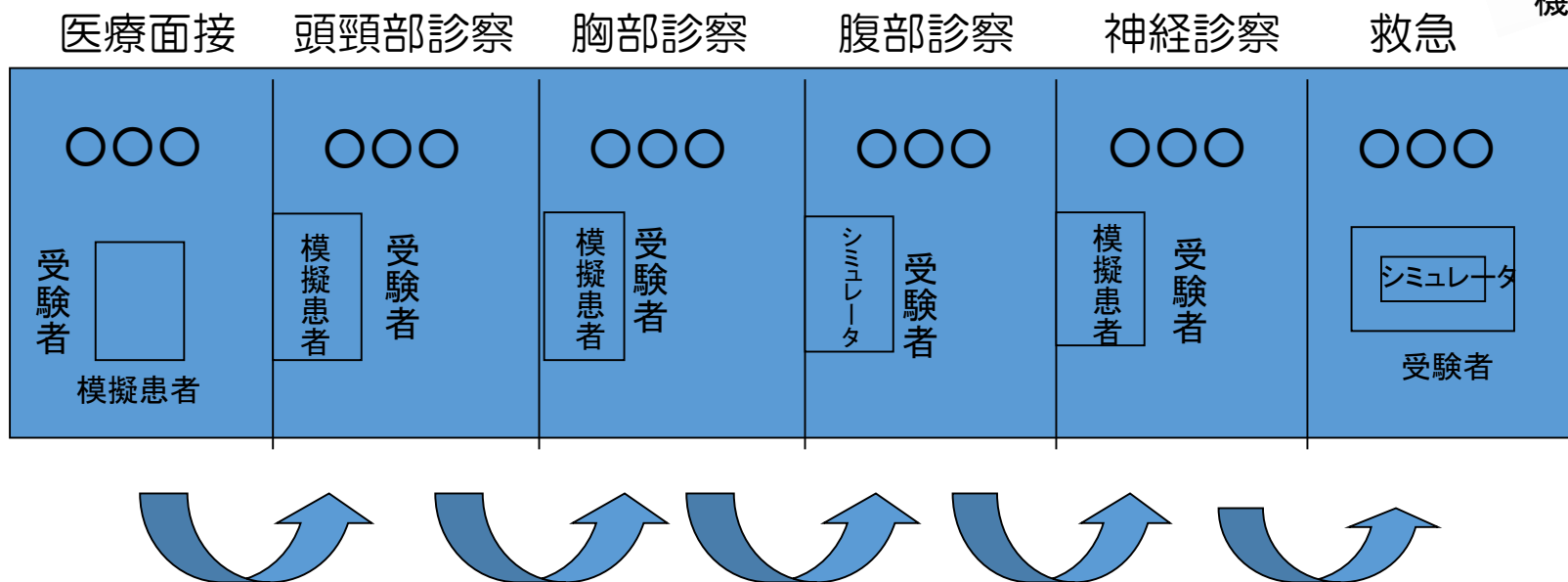


- 課題数分の試験室を用意し、受験者は一定時間ごとに、それを移動してゆき、各室に示されている課題に取り組む
- 各室には課題を実施するための模擬患者やシミュレータが用意されている
- 各室には複数の評価者が控えていて、受験者のパフォーマンスを、あらかじめ用意された評価マニュアルに基づいて評価する
- 課題実施終了後に評価表の集計・統計解析等を実施し、合否判定の資料とする

臨床実習開始前OSCEの試験室



機構派遣監督者



○:トレーニングされた複数の評価者

評価者: 実施大学の教員(内部評価者)のほか、評価者としての講習を受けた他大学の教員6名(外部評価者)が実施大学に赴き評価する

OSCEは、シミュレーションテストの一つ



実際の患者さんを診察する前に、模擬的な診察を行い、
診察能力の修得状況の総括評価を行う

模擬患者（SP）

受験者

評価者

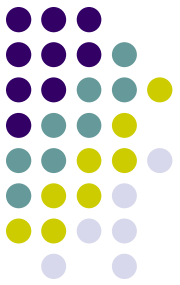


医療面接



腹部診察

OSCE実施風景



評価者

模擬患者はボランティア

患者役は学生（3年次）



医療面接

学生

模擬患者



頭頸部診察面

学生

評価者



外科手技・救急の例
(シミュレータ使用)

評価者



胸部診察

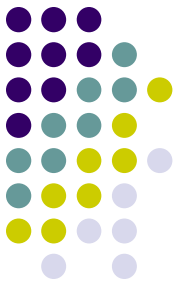
(シミュレータ使用)

学生

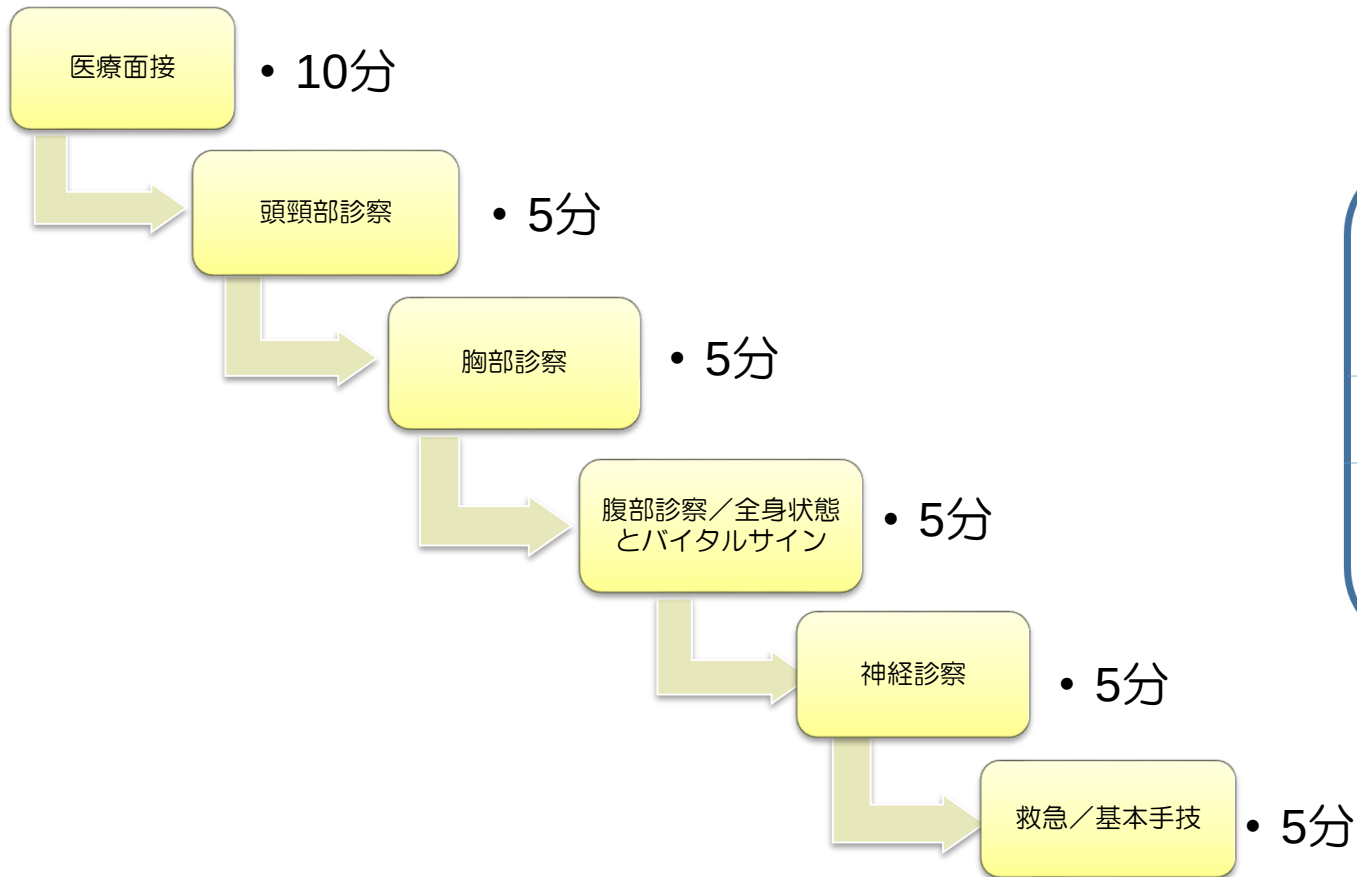


腹部診察

患者役は学生（3年次）



臨床実習前OSCEの試験室構成例 と概略評価区分



概略評価区分

- | | |
|---|------------------------|
| 6 | 優れている(医師と
違いがないレベル) |
| 5 | 良い(学生としてはよく
できるレベル) |
| 4 | 合格レベル |
| 3 | 合否境界領域 |
| 2 | 不合格だが改善可能 |
| 1 | 明らかに不合格 |

OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験)の実際 (現行)



機構派遣監督者、内部・外部評価者

- 基本6課題領域

医療面接	10分
頭頸部	5分
胸部・全身状態とバイタルサイン	5分 (※)
腹部	5分
神経	5分
基本手技・救急	5分 (※)

- 追加課題領域 各5分
実施大学の希望に応じて、四肢と脊柱、※印の課題など最大3課題領域を追加実施可能

- 受験者の移動方法
回転式 (ローテーション方式、ショットガン方式、リボルバー方式)
順次式 (トコロテン方式、通り抜け方式、ワンウェイ方式)

- 認定外部評価者養成数 (ST毎に認定)
平成30年度までの認定者数は延べ12,700名
毎年3回程度評価者講習会を実施 (約1,000人養成)

- 各ステーションで実施する課題毎に
課題シート、評価表、評価マニュアル、運用メモ、運用参考図、SP用シナリオ等の資料を準備

併せて 学習用DVD、評価者用DVDを作成・配布

- 模擬患者の養成

●評価方法

チェックリスト形式の評価項目による細目評価と細目評価で評価困難な全体の流れや円滑さ、医師としてふさわしくない行為などを評価する概略評価の2本立。

●概略評価の区分

- | | |
|---|---------------------|
| 6 | 優れている (医師と違いがないレベル) |
| 5 | 良い (学生としては良くできるレベル) |
| 4 | 合格レベル (最低要求レベルよりは上) |
| 3 | 合否境界領域 |
| 2 | 不合格だが改善可能 |
| 1 | 明らかに不合格 |

内部評価者 (学内) 内部評価者 (学内) 機構派遣認定外部評価者



模擬患者 (SP)

学生

【医療面接課題領域の例】



身体診察など

学生は各課題領域別試験室を順番に回り、基本的診療能力の評価を受け、全ての課題領域に合格しなければならない。

このガイドは、受験生のために、学習方法のアドバイスと、受験時の注意事項をまとめたものです。

受験前の準備

- ・課題は、「診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度に関する学修・評価項目（以下、学修・評価項目）」をもとに作られている。
- ・「共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD」（以下、DVD）を必ず視聴する。
- ・「学修・評価項目」の内容は、DVD に含まれていなくても出題される。
- ・学修・評価項目で「*」がついている項目は DVD に含まれていても出題されない。

受験当日 事前の説明や資料で OSCE 会場、待機室、試験の流れ、注意事項をよく理解しておく。

待機室（受験生の一部が受験中・終了後の時間帯に、未受験生が待機する場所）

- ・移動は誘導係に従う。不正行為と誤解されるような、私語や振る舞いを慎む。
- ・待機室から試験室前待機場所・試験室・順路にかけて持ち込みが禁止される物品があるので注意する。

待機室	順路・試験室 前待機場所	試験室	持込禁止物品
持込×	持込×	持込×	腕時計、通信や記録・再生機能のある電子機器類 （携帯電話、スマートフォン、携帯情報端末、カメラ等）
持込○	持込×（※）	持込×	教科書・参考書類（学修・評価項目も含まれる）や事前に用意 したメモ

※待機室間の移動のために、管理された場所に一時的に保管することや、透明なバッグ等に入れて持ち運ぶことは差し支えないが、順路や試験室前待機場所で読むことはできない。

試験室前の待機場所

- ・静粛にする。不正行為と誤解されるような、私語や振る舞いを慎む。
- ・速乾性消毒薬が試験室外に設置されている場合は、入室前に手指を消毒しよく乾かす。

「入室してください」などの合図

試験室への入室

- ・受験番号、氏名を評価者に名乗る。
- ・速乾性消毒薬が試験室内に設置されている場合は、手指を消毒しよく乾かす。
（身体診察前に乾いていること。課題により消毒薬がない場合もある）
- ・すべての課題シートの位置を確認し、課題を読む（音読、黙読に可）。
- ・医療面接では、話を始める前にメモ用紙や自分の手に聞かすべきポイントをメモ書きするのは不正行為とみなされる。
- ・診察器具が設置されている場合は、そのすべてを使用するとは限らない。

「開始してください」などの合図

実技開始

- ・実技時間：医療面接 10 分、その他 5 分（試験室内に時計等は配備している）
- ・医療面接では、模擬患者は試験室内か外の待合室を模した場所に待機している。緊急処置・対応が不要であることを前提として面接を行う。医療面接以外では、模擬患者は試験室内の模擬患者用の椅子かベッドに待機している。
- ・課題シートに“所見を述べよ”と指示がある場合は、評価者に向けて所見を述べる。
指示があるにもかかわらず述べずにいると、評価者から質問される場合がある。
課題シートに指示がない場合は、述べても減点にはならないが、時間不足に注意する。
- ・特別な指示がない限り、標準予防策は完了しているものとして実技を開始する。
- ・実技時間の配分を考え、患者さんへの手技の説明は簡潔に行う。
- ・医療面接以外の試験室でも、挨拶や声かけなど、患者さんや介助者に配慮したコミュニケーションを心掛ける。この点も評価の対象となる。
- ・課題の設定に応じて、評価者から状況を説明されたり、手技時間を短縮して先に進むように指示されたりすることがある。
- ・受験生が左利きの場合は、「学修・評価項目」あるいは課題シートに特に指示がなければ、左右を逆にした手技でも、右利きと同じ手技でも、どちらを行ってもよい。

「終了してください」などの合図

実技終了

- ・時間内に実技を終了できなかった場合も、患者さんへの挨拶を行う。

「移動してください」などの合図

試験室を退出

臨床実習前OSCE 受験者向け 学習・受験ガイド

OSCEの課題と学修・評価項目

-臨床実習開始前の「共用試験」：医学・歯学系大学教職員と学生のために-



共用試験OSCE課題 -医療面接-

患者：佐藤 花子さん 50歳 女性

佐藤さんは初めて外来を受診されました。

下記の項目（●）の医療面接を行ってください。

制限時間は10分間です。

- 導入：オープニング
- 良好なコミュニケーション
- 医学的情報を聞く
- 心理・社会的情報を聞く
- 締めくくり

* 順序立った、流れに沿った円滑な医療面接を心がけてください。

* 必要があればメモを取ってください。メモは、面接終了後回収します。持ち出さないでください。

* 必要な場合は実技開始前に患者さんと自分の椅子を適切な位置と向きに調整しても構いません。

試験開始の前のメモの使用は禁止します。

●学修・評価項目 -医療面接-

(1) 診察時の配慮

- 「Ⅰ.医療面接および身体診察、手技に関する共通の学修・評価項目」を参照

(2) 導入部分：オープニング

- 適切な呼び入れをする。（失礼でない声かけ、明瞭な発音、「次の方どうぞ」などではなく名前呼び入れる。

- 患者さんが入室し易いように配慮する。（ドアをあける、導く、荷物置場を示すなど）

□ . . .

(3) 患者さんとの良好なコミュニケーション

- 患者さんと適切なアイコンタクトを保つ。（質問する時だけでなく、患者さんの話を聴くときにも適切なアイコンタクトを保つ）

□ . .

(4) 患者さん聞く（話を聞く）：医療面接

- 症状のある部位を聞く。
- 症状の性状を聞く。（症状の性質、頻度、持続時間など）

□ . . .

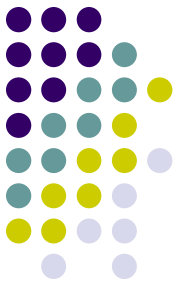
(5) 患者さん聞く：心理・社会的情報

- 患者さんの生活や仕事などの社会的状況を聞く

□ . .

OSCEの課題と学修・評価項目

-臨床実習開始前の「共用試験」：医学・歯学系大学教職員と学生のために-



共用試験OSCE課題 -腹部診察-

患者：佐藤 太郎さん 50歳 男性

主訴は心窩部痛、タール便です。

下記の項目（●）の診察を仰臥位で行ってください。

制限時間は5分間です。

- 腹部の視診
- の聴診
- の打診
- の触診
- の視診
- の確認

* 視診は所見を評価者に述べながら行ってください。

* 視診以外は評価者に述べる必要はありません。

●学修・評価項目 -医療面接-

(1) 診察時の配慮

- 「Ⅰ.医療面接および身体診察、手技に関する共通の学修・評価項目」を参照

(2) 医療安全

1) 腹部全般

- 腹部を露出させることを事前に説明し同意を得る。
- 痛みのある領域の打診や叩打痛及び触診は適度に苦痛を与えないように実施する。

2) * 直腸診（臨床実習前にはシミュレータを用いて学習し、臨床実習では指導医の指導のもとで行う）

- 直腸診の目的を患者さん医説明する。

□

(3) 全般的注意事項

- ベッドに仰向けになってもらい、腹部を十分に露出する。
 - 一般的には、患者さんの右側に立って右手で診察することが推奨されている。
 - 可能な限り心窩部から恥丘、鼠蹊部までの範囲を診察できるようにする。
 -

- 視診-聴診-打診-触診の順で診察を勧める

□ . . .

(4) 基本的診察法

1) 視診

OSCEの課題と学修・評価項目

-臨床実習開始前の「共用試験」：医学・歯学系大学教職員と学生のために-



共用試験OSCE課題 -頭頸部診察-

患者：佐藤 太郎さん 22歳 男性

下記の項目（●）の頭頸部診察を行ってください。

制限時間は5分間です。

- 頭皮・頭蓋
- 眼（・・・・・・・・）
- ・・・・・・・・
- ・・・・・・・・
- ・・・・・・・・
- ・・・・・・・・

* 所見を述べる必要はありません。

* スペキュラは消毒済みです。診察後、スペキュラを外す必要はありません。

共用試験OSCE課題 -胸部診察-

患者：佐藤 太郎さん 56歳 男性

座位で下記の項目（●）の診察を行ってください。

制限時間は5分間です。

- 肺（全面）
 - 打診
 - 聴診
- 心臓
 - 視診（所見を述べてください。）
 - 聴診

OSCEの課題と学修・評価項目

-臨床実習開始前の「共用試験」：医学・歯学系大学教職員と学生のために-



共用試験OSCE課題 -神経診察-

患者：佐藤 太郎さん 46歳 男性

佐藤さんは、〇〇〇〇を訴えて来院しました。

下記の項目（●）の神経診察を行ってください。

制限時間は5分間です。

- 筋
- 歩行
- 反射
- 徴候

* 所見を評価者に述べる必要はありません。

共用試験OSCE課題 -バイタルサイン-

患者：佐藤 太郎さん 56歳 男性

座位で下記の項目（●）の診察を行ってください。

制限時間は5分間です。

- の測定
- 動脈の触診
- の血圧測定

* 所見と測定値を評価者に述べてください。

OSCEの課題と学修・評価項目

-臨床実習開始前の「共用試験」：医学・歯学系大学教職員と学生のために-



共用試験OSCE課題 -基本的臨床手技-

患者：佐藤 太郎さん 56歳 男性

主訴は心窩部痛、タール便です。

ここは外来採血室です。

これから採血を行います。

下記の項目（●）を行ってください。

制限時間は5分間です。

- 手袋の装着
- 静脈から真空採血管に採血
- 使用済み物品の廃棄
- 処置後、アルコール消毒薬で手指消毒

* 事前に、あなたが採血を行う承諾を得ています。

共用試験OSCE課題 -救急-

患者：氏名不詳 10歳ぐらい 女児

ここは病院の売店の前です。

目の前で10歳ぐらいの女児が倒れました。

人形（シミュレータ）をその女児とみなして、下記の項目（●）の処置を行ってください。

制限時間は5分間です。

● 救急蘇生法

- * 評価者から伝えられる状況設定や指示に従って処置を勧めてください。
- * 患者さんの所見は評価者が告げます。
- * 評価者が病院職員役、医師役をします。
- * あなたは感染防御具またはバッグ・バルブ・マスクと手袋を持っています。

【共通の事前準備、実施手順および配慮】

(注) 医療面接や診察および手技を行う際の共通した項目を手順に従いできるだけ簡潔にまとめた。
なお、【一般的事項】のすべての項目を網羅したものではない。

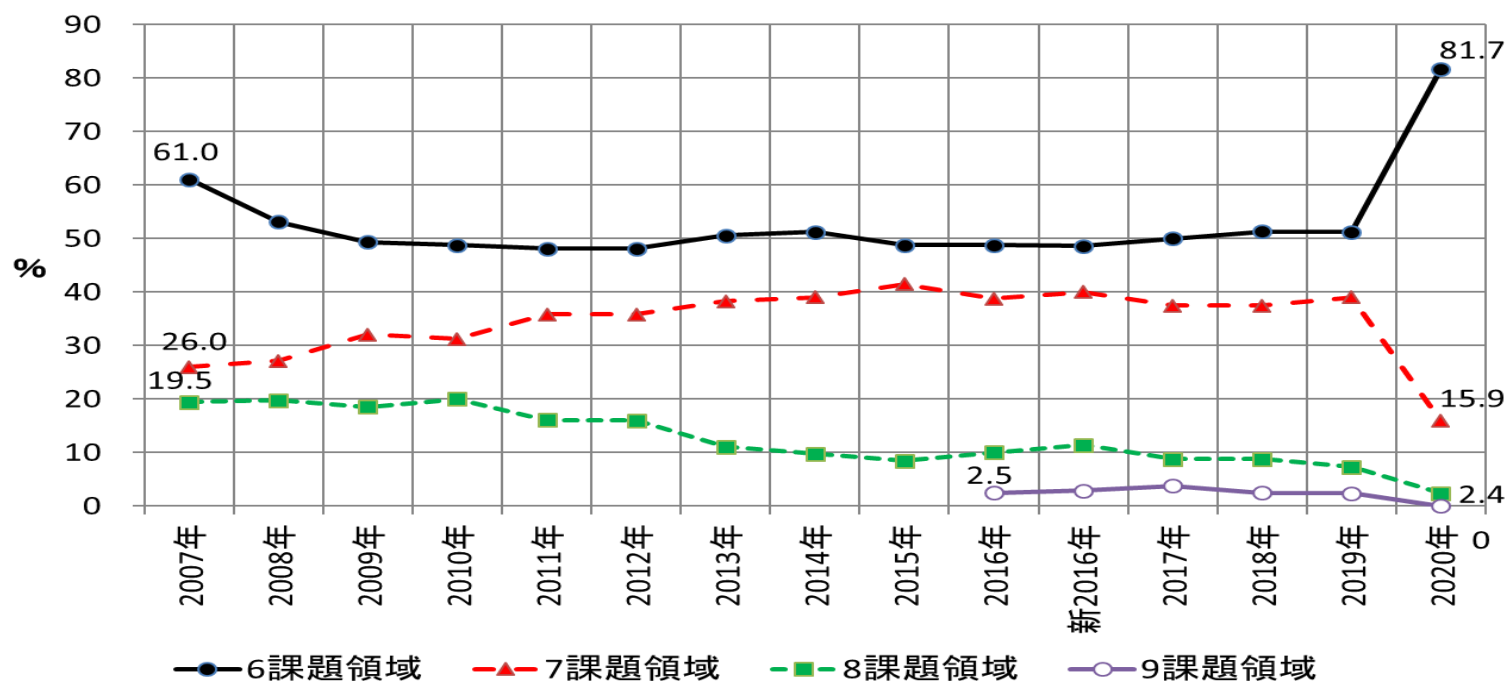
医療面接や診察および手技を行う環境の準備
☐ 医療面接や診察および手技は患者さんの安全に配慮した環境で行い、必要に応じてエアコンや照明を調整する。 ☐ 小児や高齢者などより一層安全管理に配慮する必要がある患者さんでは、看護師（または他の医療職）や患者さんのご家族に介助・陪席等を依頼する。 ☐ 患者さんの話を聞くにあたり大部屋ではプライバシーに配慮し、窓やベッド周囲のカーテンを閉めるなどする。場合によっては場所を変える必要がないかを確認する。
診察や手技の準備
☐ 医療面接や診察および手技にふさわしい身だしなみを整える。 ☐ 診察や手技の内容や自分の服装に応じてユニフォーム（白衣）の袖をまくり、腕時計や装飾品などを外す。 ☐ 標準予防策に従い医療面接や診察および手技の前には適切に手指衛生を行い、必要に応じてPPEを装着する。 (例) 咳をしている患者さんに対応する場合はマスクを着用する。
診察や手技に用いる器具の準備
☐ 聴診器などの患者さんに直接触れる非滅菌の診察器具はアルコール綿などで診察前に消毒する。 ☐ 滅菌済みの器具を用いる場合は、適切に取り扱う。
患者さんへの挨拶、自己紹介
☐ できるだけ患者さんと同じ目の高さで、「おはようございます」、「お待たせしました」など明確に挨拶する。 ☐ 患者さんに対して自分の姓名または姓を聞こえるように明確に告げる。難しい漢字は名札を示す。
患者確認
☐ 本人確認のためという目的を告げ、患者さんに姓・名ともに名乗ってもらう。生年月日の確認の追加や患者さんの姓名の読み上げによる確認については、各大学のルールに従う。
インフォームド・コンセント
☐ 患者さんに医療面接または身体診察、手技の目的と内容を伝え了承を得る。
患者さんの診察や手技に対する準備
☐ 診察、手技の内容に応じて、患者さんに装着物（眼鏡、義歯、腕時計、装飾品等）を外してもらったり、衣服をまくり脱いだりしてもらう ☐ 患者さんに診察や手技の内容に適した体位や肢位をとってもらう。必要に応じて患者さんの移動や体位変換を適切に介助する。 ☐ 咳をしている場合はマスクを着用してもらう。





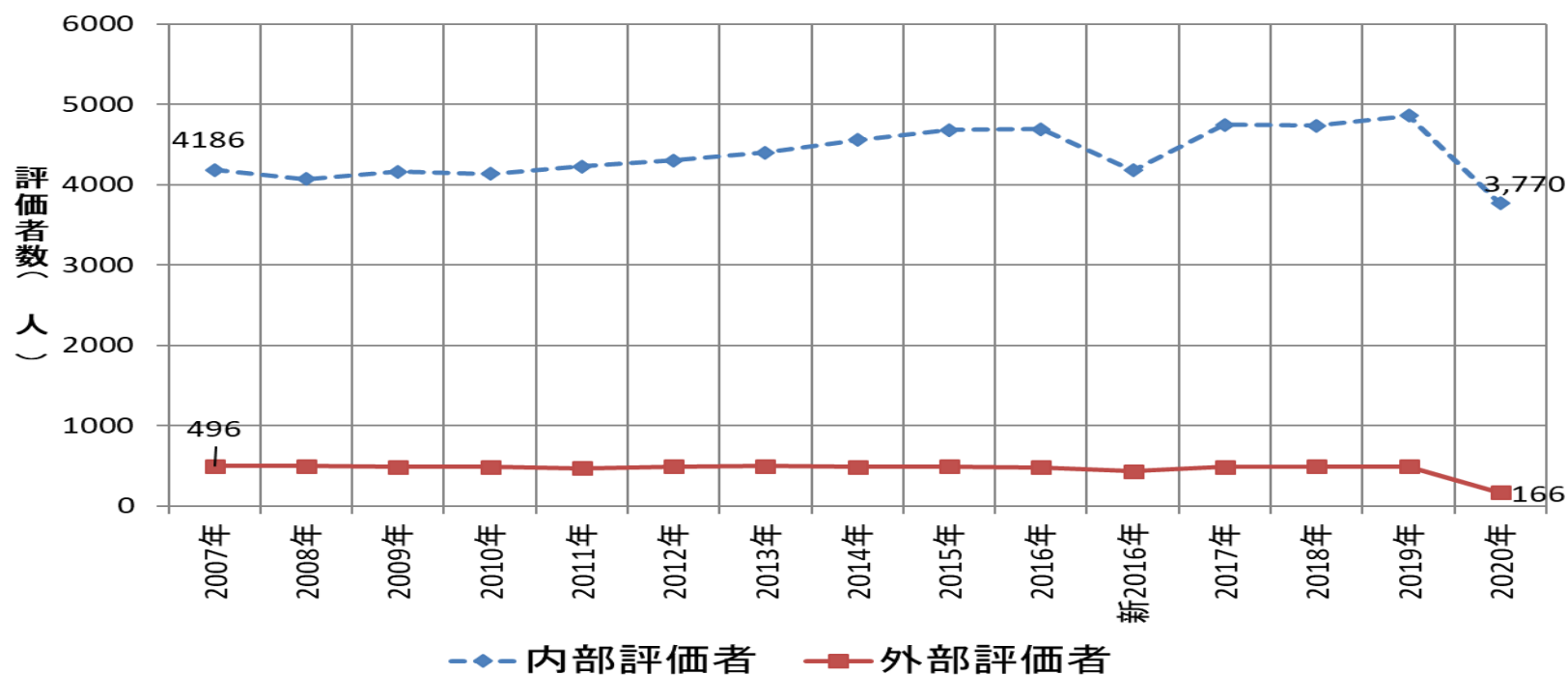
患者さんの羞恥心への配慮
☐ 患者さんの羞恥心に配慮してバスタオルや診察用ガウンを適宜使用する。
マナーを守った診察や手技の内容に応じた適切なコミュニケーション
☐ 患者さんが戸惑わないように予告や指示などの声かけをする。 ☐ 診察や手技、会話の内容に応じて適切なアイコンタクトを保つ。 ☐ 患者さんにわかりやすく、丁寧な言葉遣いで会話する。 ☐ 患者さんの状態にあった適切な声の大きさ、話のスピード、声の音調を保つ。 ☐ 患者さんが過度に緊張しないように自分の表情や仕草、声の音調などに配慮する。 ☐ 患者さんに不安感を与えるような不適切な言動は慎む。 ☐ ＊診察の区切りで指導医のもとで患者さんに所見を説明する。
疾病や診察手技に伴う苦痛への配慮
☐ 苦痛を伴う可能性がある場合は事前に伝える。 ☐ 医療面接や診察時、患者に不快感を与えないよう適切な距離を保つ。 ☐ 必要に応じて手や聴診器等の診察・検査器具を温める。 ☐ 痛みがあるとわかっている部位の打診や触診は最後にする。 ☐ 患者さんに質問したり、患者さんから合図してもらうなどして診察や手技に苦痛を伴っているかどうか確認する。 ☐ 患者さんの表情や体動からも、診察や手技に苦痛をとまなっているかどうかを確認する。 ☐ 必要に応じて患者さんの移動や体位変換を適切に介助する。 ☐ ＊（症状の強い場合）医療面接、診察、手技を行うことが可能かどうかを患者さんに確認する。 ☐ ＊（症状の強い場合）患者さんが楽な姿勢でいられるように配慮する。
医療面接や診察および手技の安全な実施
【一般的事項】（1）医療安全 1）、2）、4）、5）に述べた事項を遵守する。
医療面接や診察および手技の終了後
☐ 挨拶または「協力に対するお礼」を述べる。 ☐ 患者さんが着衣などを整えるのを手伝う。必要に応じて患者さんの移動や体位変換を適切に介助する。 ☐ 次のステップ（どこで待っていただくかなど）の説明をする。 ☐ 装着していたPPEを適切に外し廃棄するなど医療廃棄物は適切に処理し、手指衛生を行う。 ☐ 【一般的事項】（2）個人情報保護、プライバシー保護および診療録に関するセキュリティ管理 に述べた事項を遵守し診療録を記載する。

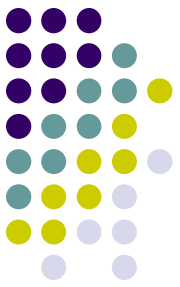
医学系臨床実習前OSCE 実施課題領域数別大学数（％）の年次推移



医学系臨床実習前OSCE

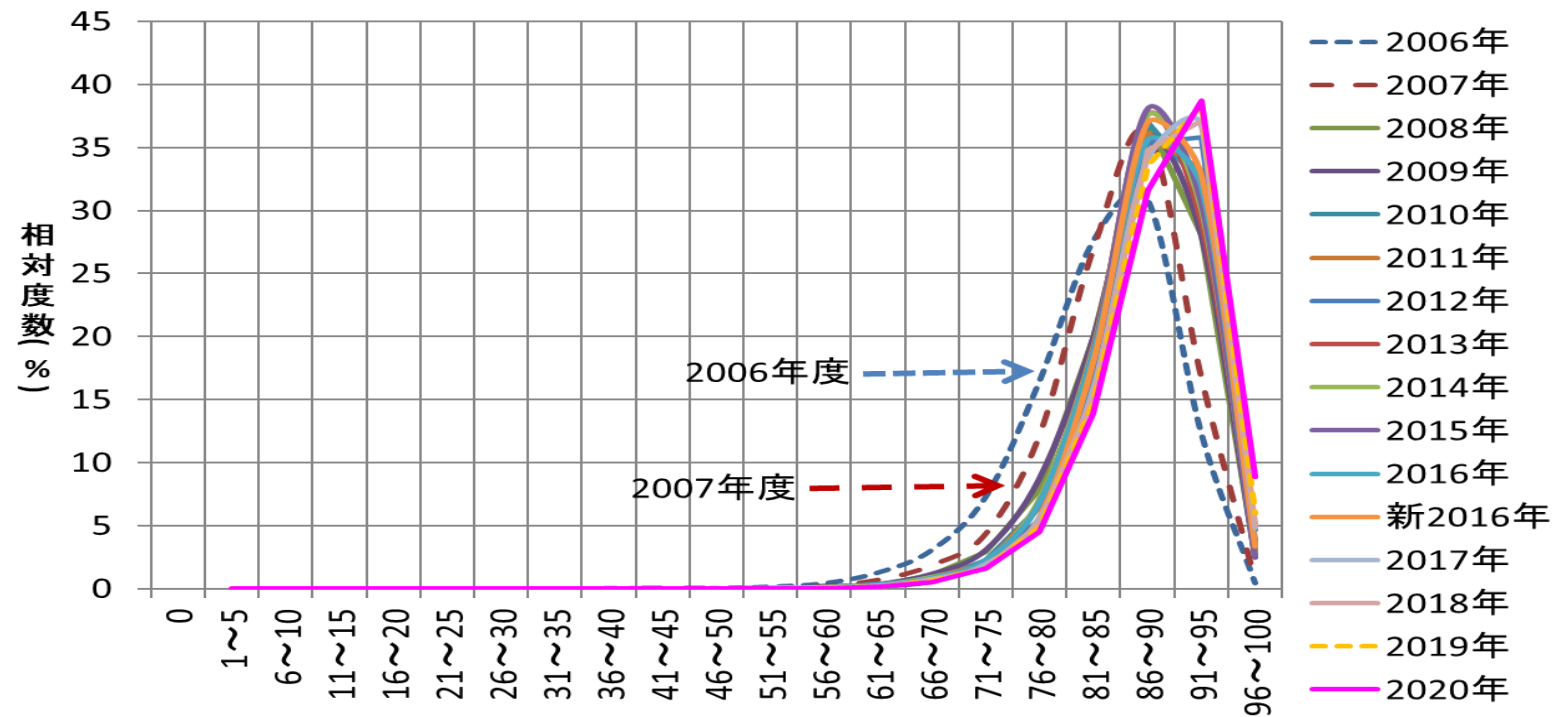
内部／外部別延べ評価者数の年次推移



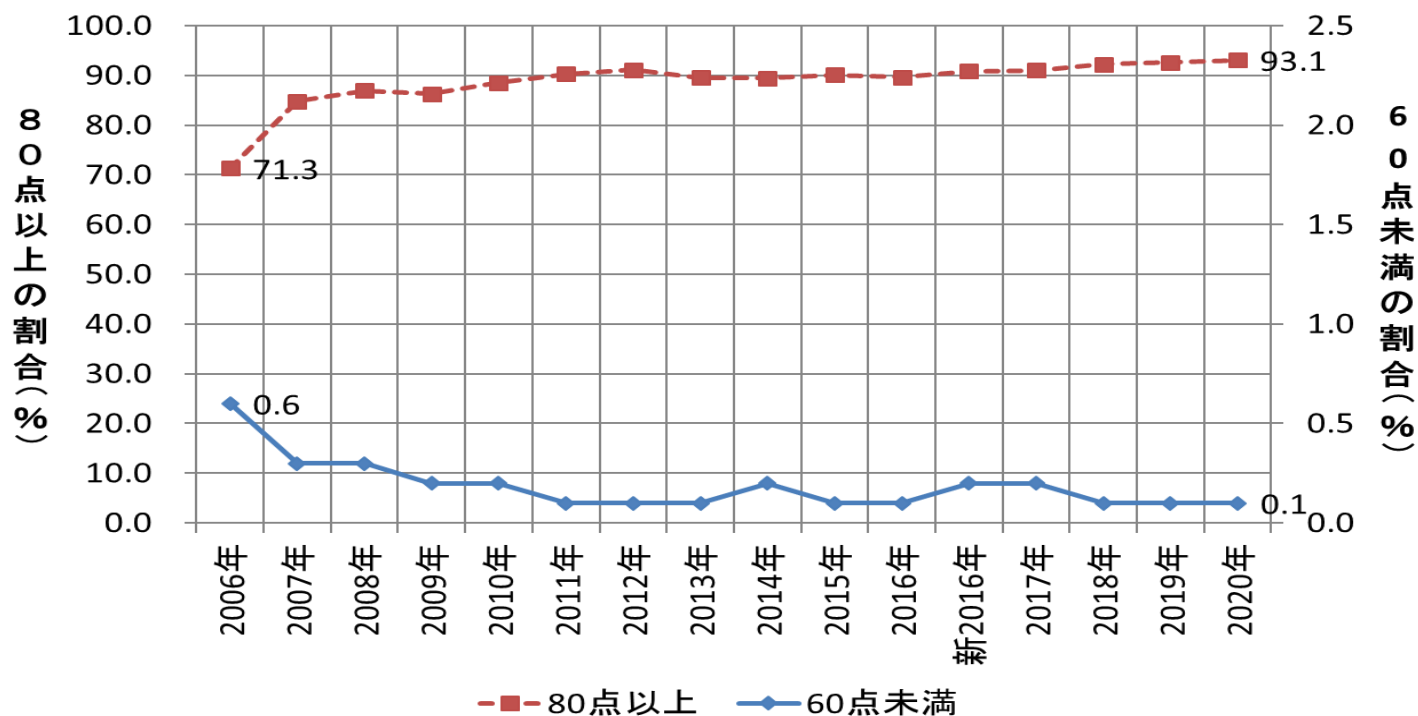


医学系臨床実習前OSCE

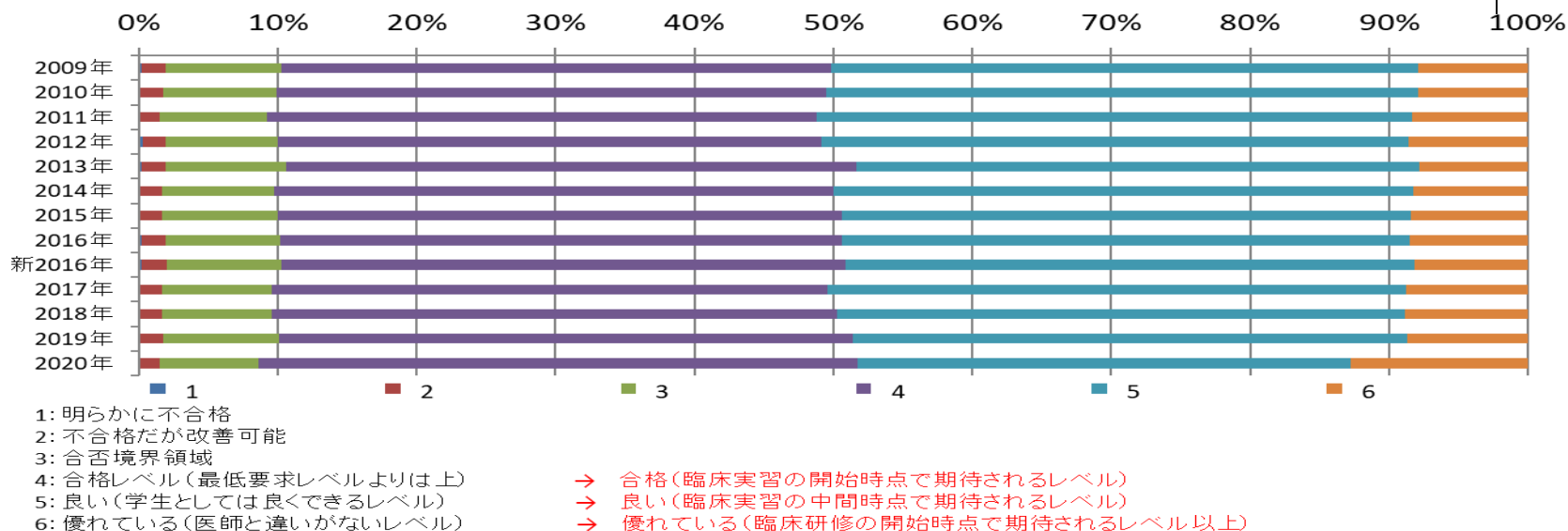
総得点（項目加算得点）の分布の年次推移



医学系臨床実習前OSCE高得点と低得点 受験者の総受験者に対する割合の年次推移



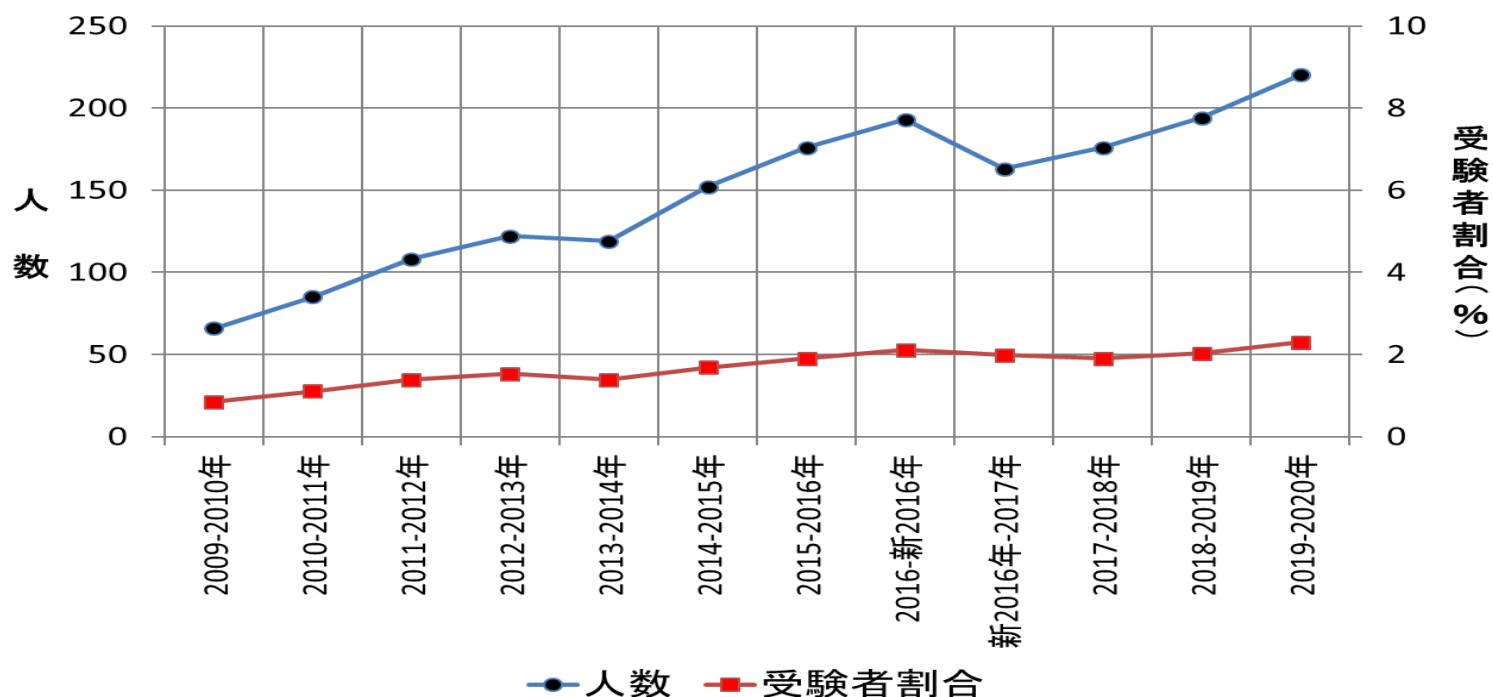
医学系臨床実習前OSCE全評価者が評価した概略評価の分布の年次推移



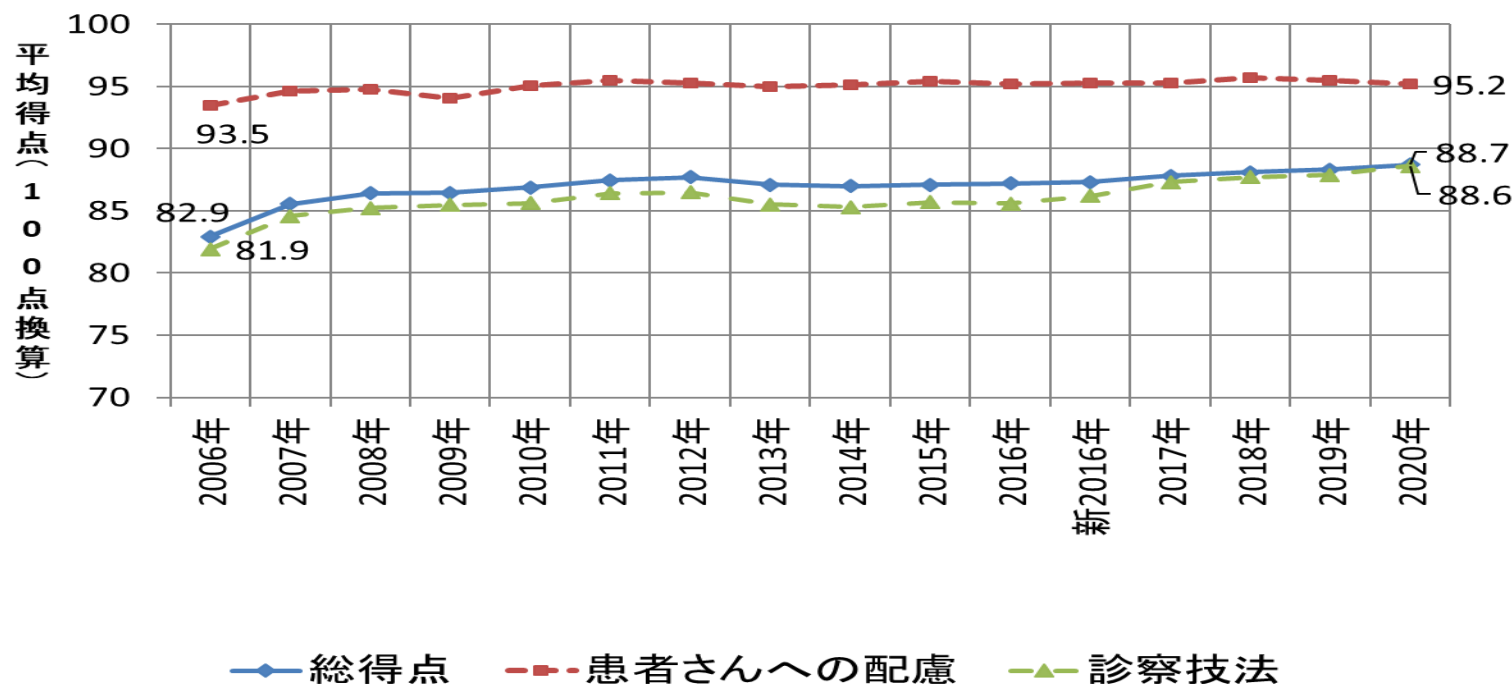
	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	新2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
2	1.7	1.7	1.4	1.7	1.7	1.6	1.6	1.7	1.8	1.6	1.6	1.7	1.4
3	8.4	8.1	7.7	8.0	8.7	8	8.3	8.3	8.3	7.9	7.9	8.3	7.1
4	39.5	39.5	39.5	39.2	41.1	40.3	40.6	40.5	40.6	40	40.7	41.3	43.2
5	42.3	42.6	42.8	42.3	40.6	41.7	40.9	40.9	40.9	41.6	40.9	39.9	35.5
6	7.9	7.9	8.3	8.6	7.8	8.2	8.4	8.5	8.2	8.8	8.9	8.7	12.8

医学系臨床実習前OSCE

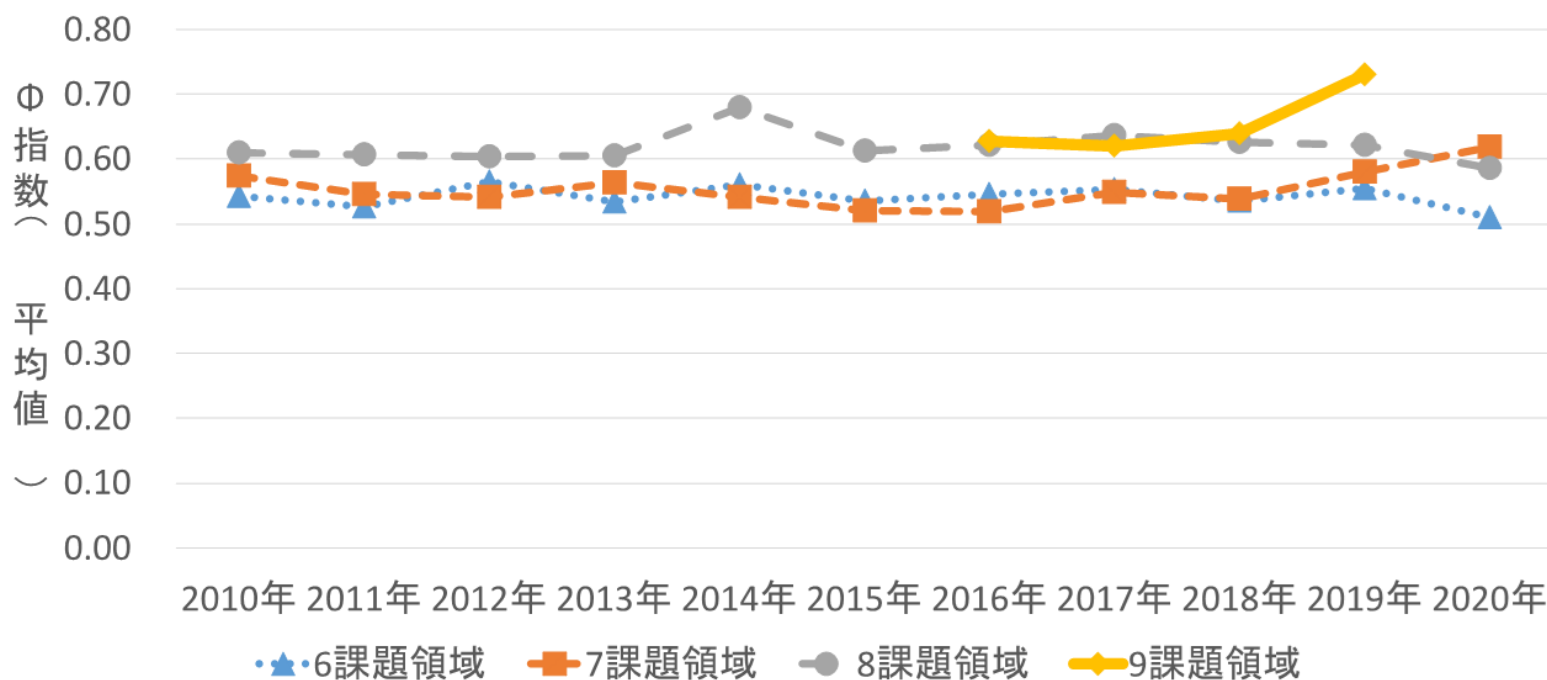
2年連続受験者数と受験者率の年次推移



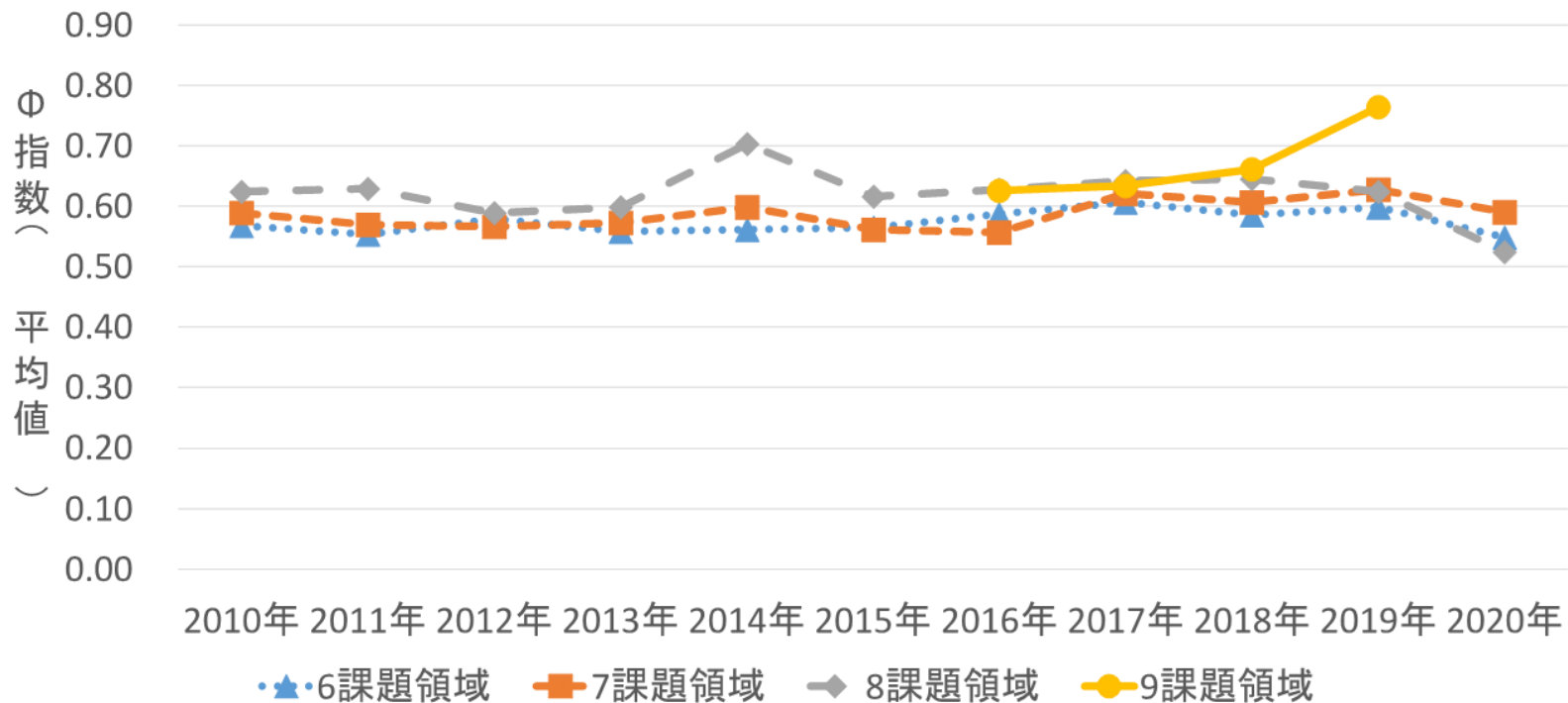
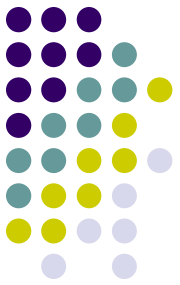
医学系臨床実習前OSCE カテゴリ別平均得点の年次推移

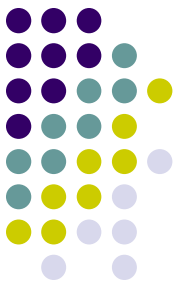


医学系臨床実習前OSCE実施課題領域数別 Φ指数の年次推移（項目加算得点）



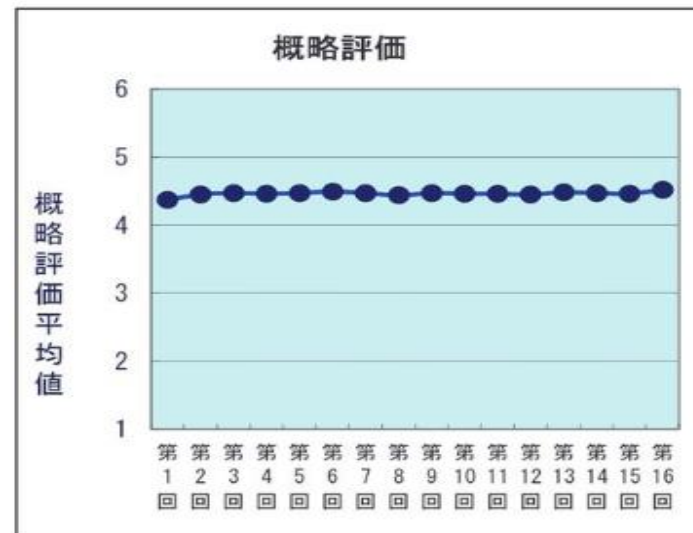
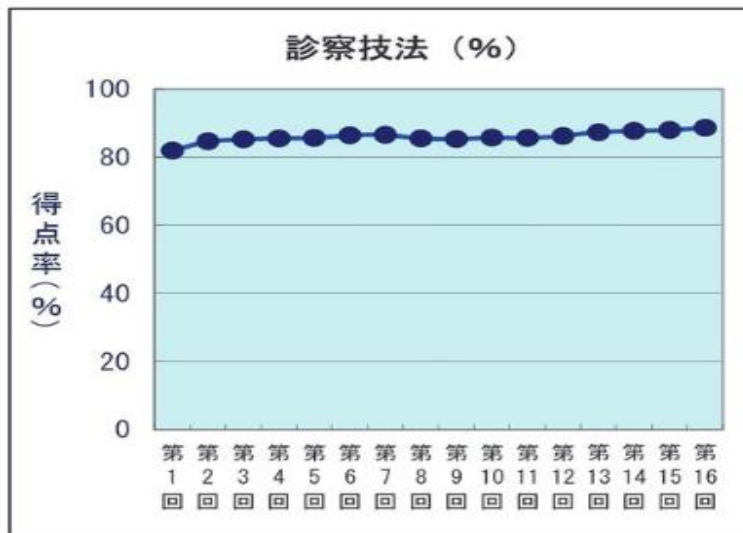
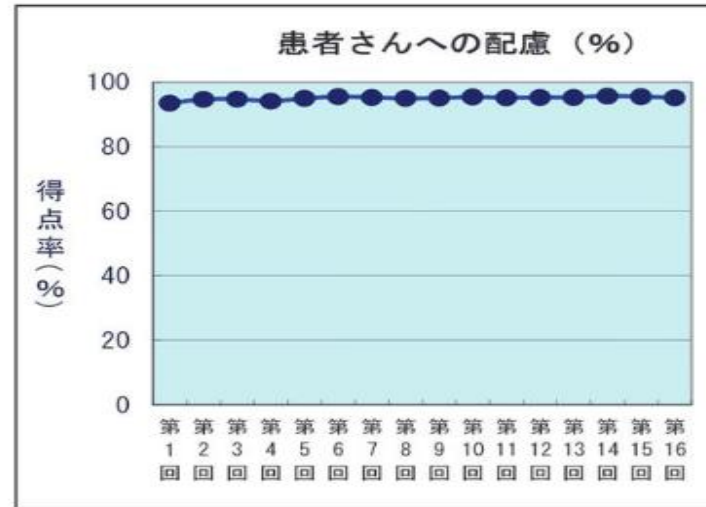
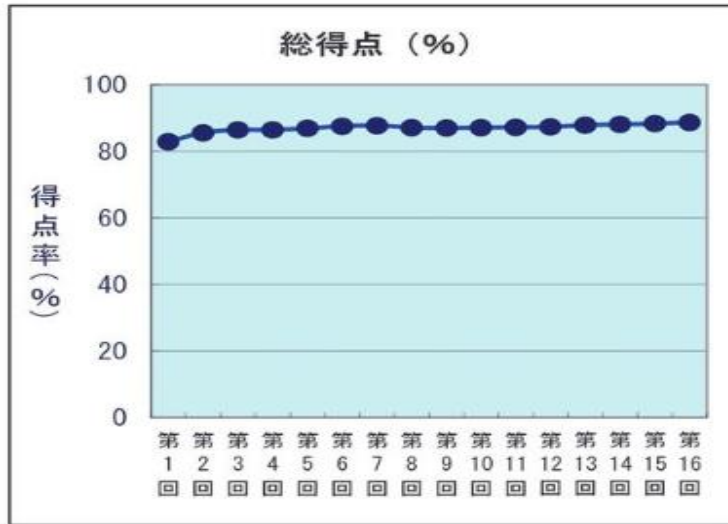
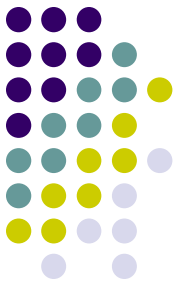
医学系臨床実習前OSCE実施課題領域数別 Φ指数の年次推移（概略評価）

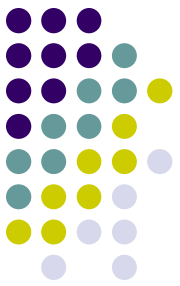




- 2020年度はコロナ禍の影響により、試験実施状況が大きく変化した。実施課題数、外部評価者数の著しい減少が見られた
- 学生の成績の経年的な傾向には、大きな変化は見られなかった
- 80点以上の成績の学生は全体の93%となり、高得点がとれる試験となっている
- 信頼性についての解析では、現状の課題数ではやや信頼性が不足している傾向がみられる

臨床実習開始前OSCEの全国成績





臨床実習開始前OSCEの実施状況

月別実施状況

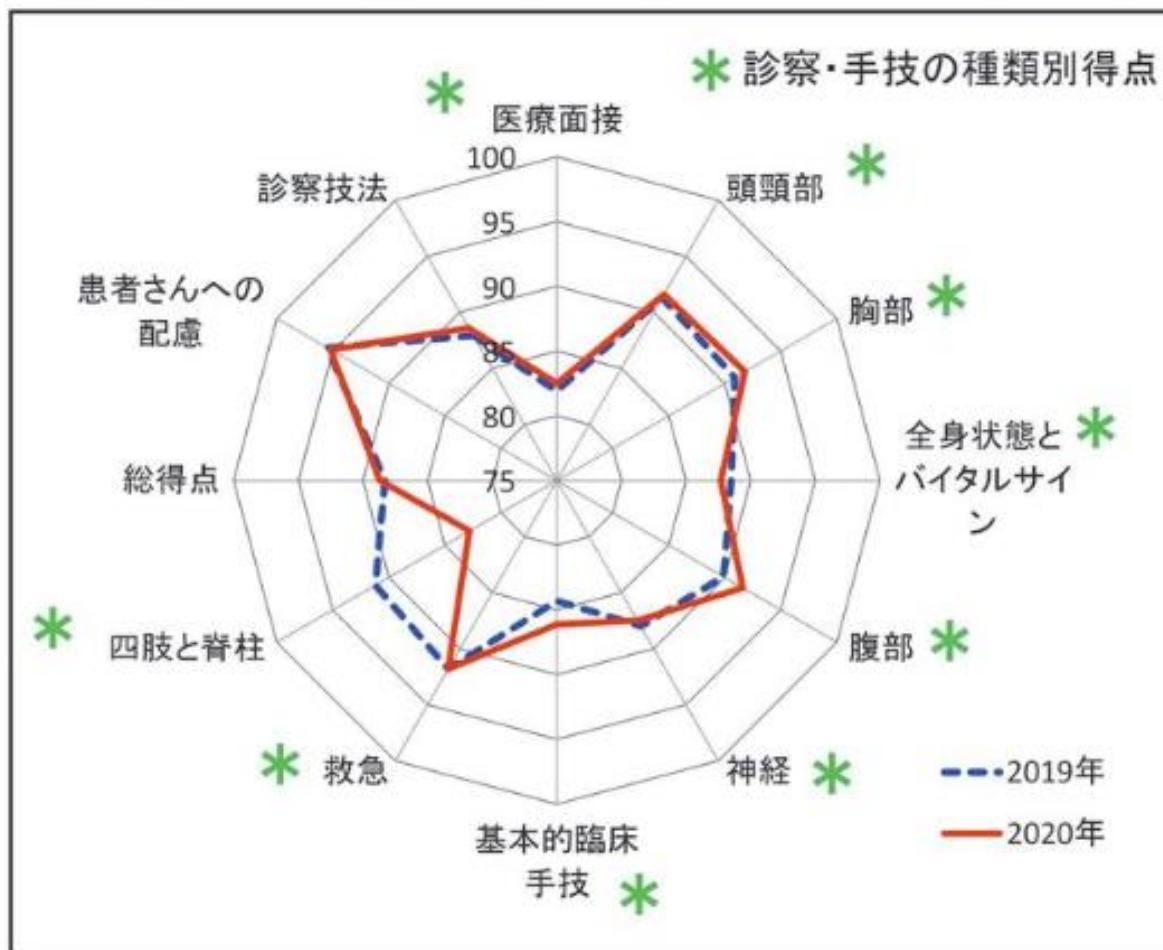
		実施大学数	受験者数
2020年	8月	9	1,038
	9月	15	1,756
	10月	13	1,547
	11月	13	1,508
	12月	17	2,041
2021年	1月	7	769
	2月	7	829
	3月	1	103
計		82	9,591

実施課題数

課題数	2020年 大学数	2019年 大学数	2020年 %	2019年 %
6	67	42	81.7	51.2
7	13	32	15.9	39.0
8	2	6	2.4	7.3
9	0	2	0.0	2.4

COVID-19の影響でコロナ特例実施大学が増えるとともに、2020年度は実施課題数が減っている。

臨床実習開始前OSCEの カテゴリ別平均得点の年次推移

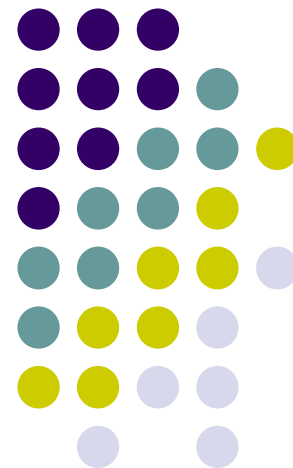


臨床実習開始前OSCEの課題別成績状況



	医療面接	頭頸部	胸部	全身状態と バイタルサイン	腹部	神経	基本的 臨床手技	救急	四肢と 脊柱
対象数	9,591	9,591	7,045	2,782	9,591	9,591	5,190	5,380	644
最高点	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
最低点	29.0	25.9	34.5	34.0	39.6	10.0	10.6	27.8	28.0
平均点	82.5	91.6	91.8	87.7	91.6	87.5	86.1	91.8	82.8
標準偏差	9.48	8.34	7.40	10.56	7.66	9.63	12.86	8.73	15.00
中央値	83.3	93.3	93.3	89.7	93.1	89.7	88.2	94.4	87.0
<2019年>									
平均点	81.9	91.3	90.9	88.5	89.9	88.0	84.3	91.8	91.2
標準偏差	9.23	7.56	8.13	10.66	7.84	9.07	13.07	7.77	8.87

臨床実習後OSCE (Post-CC OSCE)



診療参加型臨床実習後 客観的臨床能力試験の理念



診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（臨床実習後OSCE；Post-CC OSCE）は、国民・社会の要請に応えた優れた医師育成に向けて、大学自らが臨床実習後、すなわち卒業時の臨床能力を適切に評価するための共用試験システムである。

卒業時の臨床能力とは、すなわち臨床研修開始時に必要な臨床能力であり、安全・安心の診療に不可欠なものである。

研修開始時に身につけておくべき臨床能力（CATO）



1	適切な医療面接ができる
2	適切な身体診察ができる
	①スクリーニング診察ができる
	②診断仮説に基づいた身体診察ができる
3	得られた所見から適切な臨床推論ができる
4	適切な症例プレゼンテーションができる
5	問題点に即した適切な検査計画を立てられる
6	得られた情報を統合し、診断・治療計画を立案できる
7	臨床上の問題に対してエビデンスを収集できる
8	正しい診療記録（カルテ）を記載できる
9	患者の申し送りを行うことができる
10	医療安全上の問題を報告・連絡・相談できる
11	多職種チームで協働できる
12	インフォームドコンセントを得ることができる
13	基本的臨床手技を実施できる
14	緊急性を評価し、適切な初期対応ができる

研修開始時に身につけておくべき臨床能力（CATO）



- 1 適切な医療面接ができる
- 2 適切な身体診察ができる
- ~~①スクリーニング診察ができる~~
- ②診断仮説に基づいた身体診察ができる
- 3 得られた所見から適切な臨床推論ができる
- 4 適切な症例プレゼンテーションができる
- 5 問題点に即した適切な検査計画を立てられる
- 6 得られた情報を統合し、診断・治療計画を立案できる
- 7 臨床上の問題に対してエビデンスを収集できる
- 8 正しい診療記録（カルテ）を記載できる
- 9 患者の申し送りを行うことができる
- 10 医療安全上の問題を報告・連絡・相談できる
- 11 多職種チームで協働できる
- 12 インフォームドコンセントを得ることができる
- 13 基本的臨床手技を実施できる
- 14 緊急性を評価し、適切な初期対応ができる

機構課題で
測定する能力

臨床実習後OSCEの実際



➤ 1課題の試験時間16分

(医療面接・身体診察12分+指導医へのプレゼンテーション4分)

➤ 実際の診療場面と同様、受験生は一人の（模擬）患者を診察し、指導医に報告する

ある症候を有する（模擬）患者に医療面接を行う
(例：頭痛、胸が苦しい、腹痛、足が浮腫む など)

身体診察をする
(病歴から考えられる疾患鑑別に必要な身体診察)

病態および鑑別疾患を考える（臨床推論）
(最も考えられる疾患および鑑別すべき疾患とその根拠 など)

指導医にプレゼンテーションする
「こういう患者さんで、このような病態が考えられます」 など

12分

4分

認定評価者養成にご協力いただいている団体



NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）

日本医師会

国立病院機構（NHO）

地域医療機能推進機構（JCHO）

恩賜財団 済生会

日本赤十字

JA厚生連

全国自治体病院協議会（JMHA）

全国国民健康保険診療施設協議会

全日本病院協会

労働者健康安全機構（労災病院）

厚労省医政局医事課医師臨床研修推進室（地方厚生局経由）

日本医学教育学会 等

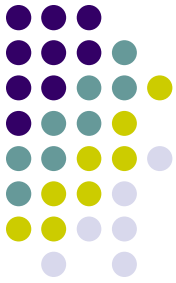
認定評価者がいる臨床研修指定病院 2021.10現在

(独) 国立病院機構 金沢医療センター
JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院
JCHO東京高輪病院
JR広島病院
NTT東日本関東病院
つがる西北五広域連合 つがる総合病院
つるぎ町立半田病院
ハートライフ病院
愛媛県立中央病院
愛媛生協病院
伊勢赤十字病院
伊那中央病院
医療法人 神甲会 隈病院
医療法人 川崎病院
医療法人社団 雨森医院
医療法人藤井会 石切生喜病院
井上病院
育和会記念病院
一般財団法人 温知会 会津中央病院
一般財団法人 住友病院
浦添総合病院
横浜市立みなと赤十字病院
横浜労災病院
岡崎市民病院
岡山済生会総合病院
岡山市立市民病院
沖縄県立中部病院
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
下越病院
加賀市医療センター
加古川中央市民病院
刈谷豊田総合病院
岩手県立中央病院
岩手県立中部病院
岩手県立磐井病院
気仙沼市立病院
京都第一赤十字病院
京都第二赤十字病院
桐生厚生総合病院
近江八幡市立総合医療センター
金沢市立病院
金沢赤十字病院
九州労災病院
恵寿総合病院
県北西部地域医療センター国保白鳥病院
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
公立つるぎ病院
公立学校共済組合北陸中央病院
公立松任石川中央病院
公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター
公立南砺中央病院
公立八鹿病院
厚生労働省関東信越厚生局
広島赤十字・原爆病院
弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
荒尾市民病院
香川県立中央病院
洛和会音羽病院
立川総合病院

香川県立白鳥病院
香川成人医学研究所
高島市民病院
国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院
国家公務員共済組合連合会 立川病院
国家公務員共済組合連合会枚方公済病院
国民健康保険 小松市民病院
国民健康保険 平戸市民病院
国立国際医療研究センター
国立国際医療研究センター国府台病院
国立国際医療研究センター病院
国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター
国立病院機構 埼玉病院
国立病院機構 長崎医療センター
国立病院機構横浜医療センター
国立病院機構京都医療センター
国立病院機構金沢医療センター
国立病院機構長崎医療センター
今立内科クリニック
佐賀市立国民健康保険三瀬診療所
佐久市立国保浅間総合病院
佐久総合病院（本院）
砂川市立病院
済生会横浜市東部病院
済生会熊本病院
済生会滋賀県病院
済生会松阪総合病院
済生会西条病院
済生会兵庫県病院
埼玉県済生会川口総合病院
三重北医療センターいなべ総合病院
土別市立病院
市立釧路総合病院
市立根室病院
市立室蘭総合病院
市立敦賀病院
社会医療法人 祐愛会織田病院
社会医療法人敬愛会 中頭病院
社会医療法人景岳会 南大阪病院
社会医療法人厚生会 多治見市民病院
社会医療法人宏潤会大同病院
社会医療法人明和会中通総合病院
社会福祉法人 聖隷福祉事業団
小牧市民病院
焼津市立総合病院
上越総合病院
上福岡総合病院
新潟県立十日町病院
新潟大学医歯学総合病院地域医療教育センター・魚沼基幹病院
新生病院
神戸労災病院
吹田市民病院
聖霊病院
製鉄記念広島病院
西脇市立西脇病院
青森市民病院
青森中央学院大学
石川県済生会金沢病院
練馬光が丘病院

赤穂市民病院
仙台市立病院
千葉市立青葉病院
川崎協同病院
川西赤十字病院
前橋赤十字病院
総合青山病院
総合病院 中津川市民病院
足柄上病院
多根総合病院
多摩北部医療センター
大同病院
大野記念病院
第二川崎幸クリニック
地方独立行政法人桑名市総合医療センター
長岡中央総合病院
長崎医療センター
長浜赤十字病院
鳥取赤十字病院
津生協病院
土庫病院
島根県立中央病院
東京ベイ・浦安市川医療センター
東京ベイ浦安市川医療センター
東京医科大学八王子医療センター
東京都済生会中央病院
東京臨海病院
東埼玉総合病院
東住吉森本病院
東松山医師会病院
東北公済病院
徳島県立中央病院
徳島市民病院
独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター
独立行政法人国立病院機構 相模原病院
独立行政法人国立病院機構 弘前病院
独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター
独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター
独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院
奈良県西和医療センター
南砺市民病院
南奈良総合医療センター
馬場記念病院
八戸市立市民病院
磐田市立総合病院
美幌町立国民健康保険病院
浜松労災病院
富山市立富山市民病院
武蔵台病院
舞鶴共済病院
福岡赤十字病院
福島赤十字病院
碧南市民病院
豊橋市民病院
豊川青山病院
本荘第一病院
名古屋記念病院
友愛医療センター

2021年度共用試験 医学系臨床実習後OSCE 評価者認定講習会開催のご案内



●開催予定日・開催地区 開催時間：12:25～16:40（予定）※会場都合で変更の可能性あり。

回数	開催年月日	開催地区	回数	開催年月日	開催地区
第32回	2月19日（土）	オンライン	第33回	3月19日（土）	オンライン

※現在集合型で予定している回についても、状況によりオンライン開催に変更となる可能性があります。

※申込締切は各開催日の2ヶ月前までとなります。

※2月19日（土）開催分の受付は終了しました。

●募集要項

- 主催：公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
- 受講料：無料
- 定員：各日70～100名程度（※定員を縮小する場合もございます）
- 申込方法：
 - pcco-rinken@umin.ac.jp宛に受講申込書の請求を行ってください。折り返し、受講申込書をメール添付でお送りしますので、必要事項を入力して返信してください。
 - 医科大学・医学部在籍の方は大学ごとの申請ですので、大学の連絡担当者にお尋ねください。
- その他：
 - 修了者には評価者認定証（有効期間5年）を発行します。
 - 遅刻、早退等があった場合、受講は認定されません。
 - 旅費等は、各自でご負担ください。
 - 駐車場の確保はできませんので、お車でのご来場をお考えのかたはご注意ください。
 - 服装は軽装で構いません。
 - 昼食は支給されません。お食事はあらかじめお済ませください。
 - オンライン講習の場合は留意事項等を別途ご案内します。



●申込要件

日本国の医師免許を有する医師（歯科医師は除く）であり（注1）、以下の要件3つのうちいずれかを満たす場合に申込が可能です。

- 臨床研修指導医（注2）の資格がある。
（厚生労働省医政局長名で発行される指導医講習会修了証書をお持ちの方のみです。）
- 共用試験実施評価機構が主催する医学系（臨床実習開始前）OSCE評価者認定講習会を修了し、認定証がある。
- 医学生対象OSCE（注3）や研修医対象OSCEにおいて、評価経験やステーション責任者の経験（過去5年以内）がある。

（注1）医師であることを確認するために、参加申込時等に医籍登録番号が必要です。

（注2）「臨床研修指導医」とは、7年（84ヵ月）以上の臨床経験を有する者で、プライマリ・

ケアの指導方法等

に関する講習会（いわゆる指導医講習会）を受講済みの者を指します。

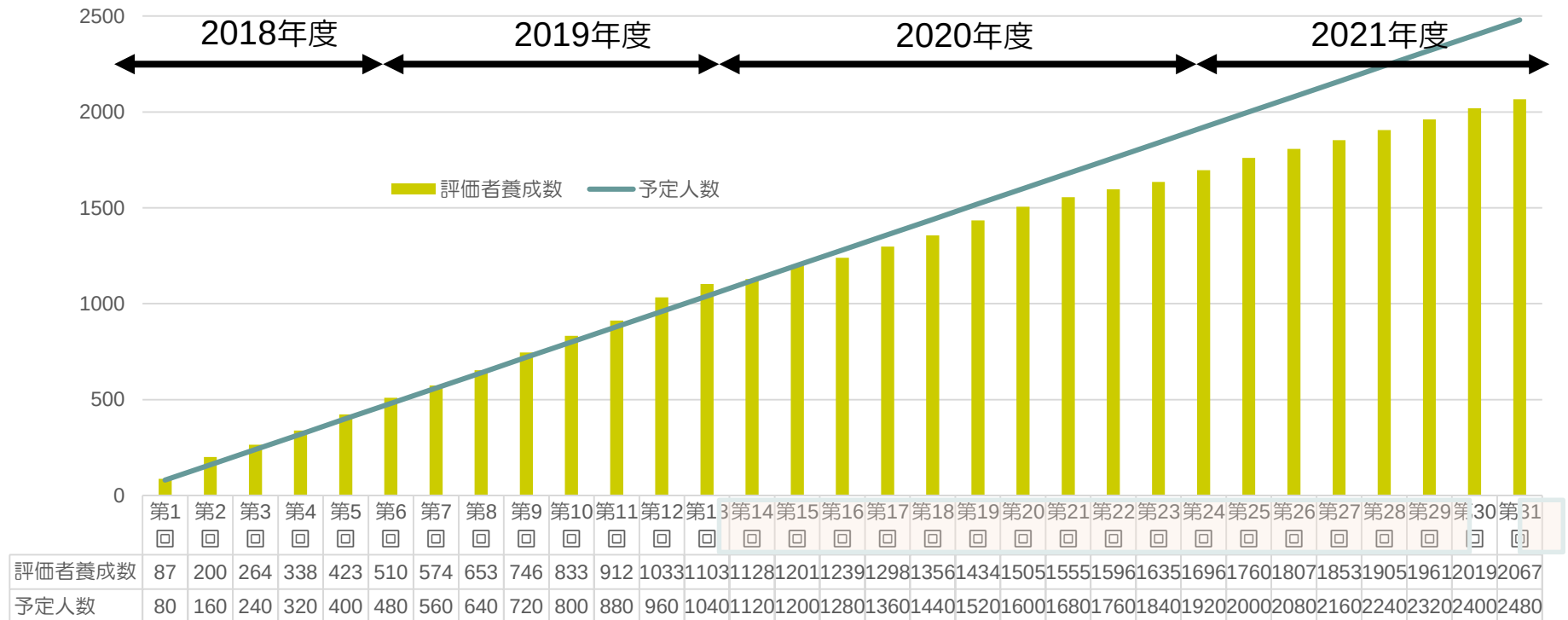
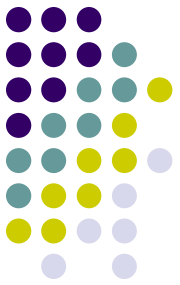
（「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」より）

（注3）「医学生対象OSCE」は、臨床実習後OSCEを含みます。

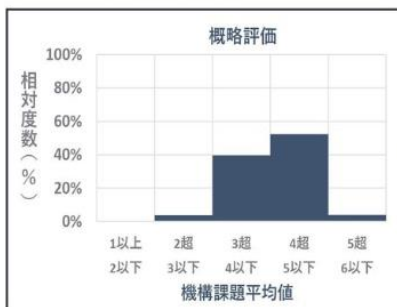
●講習会概要・・・進行表（例）

- | | |
|----------------------|-----------|
| ①イントロダクション・アイスブレイキング | ④講義・DVD視聴 |
| ②講義・DVD視聴 | ⑤質疑応答 |
| ③評価練習（グループワーク） | |

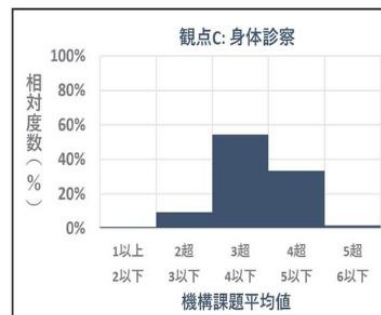
臨床実習後OSCE認定評価者数 (~2022.1)



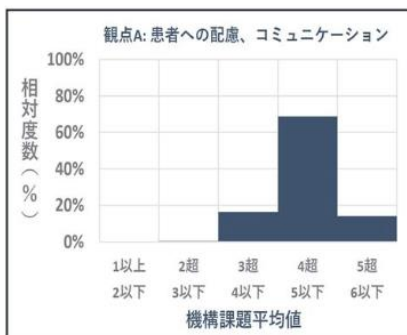
臨床実習後OSCEの全国成績



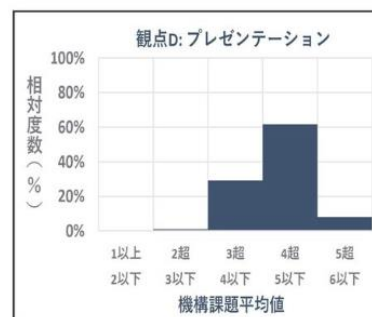
2020年度		得点、%
対象数	5,699	平均-2SD 3.09
最高点	6.00	平均+2SD 5.33
最低点	2.00	3点未満 1.5%
平均点	4.21	4点未満 22.5%
標準偏差	0.56	
中央値	4.17	



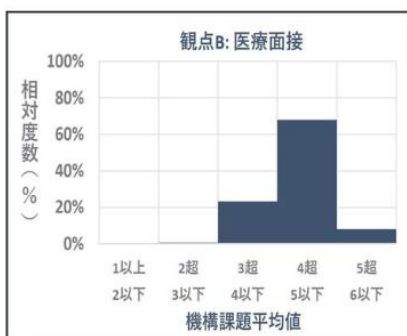
2020年度		得点、%
対象数	5,699	平均-2SD 2.65
最高点	6.00	平均+2SD 5.17
最低点	1.00	3点未満 4.4%
平均点	3.91	4点未満 45.9%
標準偏差	0.63	
中央値	4.00	



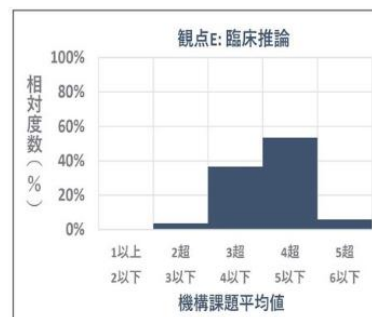
2020年度		得点、%
対象数	5,699	平均-2SD 3.56
最高点	6.00	平均+2SD 5.65
最低点	2.00	3点未満 0.3%
平均点	4.60	4点未満 5.2%
標準偏差	0.52	
中央値	4.50	



2020年度		得点、%
対象数	5,699	平均-2SD 3.37
最高点	6.00	平均+2SD 5.45
最低点	1.50	3点未満 0.3%
平均点	4.41	4点未満 12.1%
標準偏差	0.52	
中央値	4.39	



2020年度		得点、%
対象数	5,699	平均-2SD 3.48
最高点	6.00	平均+2SD 5.47
最低点	2.50	3点未満 0.2%
平均点	4.47	4点未満 9.1%
標準偏差	0.50	
中央値	4.50	



2020年度		得点、%
対象数	5,699	平均-2SD 3.05
最高点	6.00	平均+2SD 5.46
最低点	1.50	3点未満 1.8%
平均点	4.26	4点未満 22.5%
標準偏差	0.60	
中央値	4.25	

サンプル課題

ここは初診外来です。

患者：田中 和子（たなか かずこ）さん（60 歳女性）

● 医療面接と身体診察 12 分間

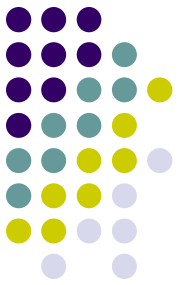
身体診察では何の診察をしているか、また具体的な所見を述べながら行ってください。適宜、別紙「指導医への報告のためのメモ用紙」を使用してください。メモ用紙は評価対象とはしませんが、終了後回収します。

● 情報整理と指導医への報告 4 分間

指導医への報告には以下の点を含めてください。

1. 患者から得た情報
2. 鑑別すべき病態・疾患とその根拠

身体診察中も病歴を医療面接模擬患者に尋ねることが可能です。



臨床実習後OSCE サンプル課題